

# 平成 30 年 9 月 第 7 回定例会質問

平成 30 年 9 月 12 日 (水)

1. 自治体間ベンチマーキングについて
2. R P A活用の進捗状況について
3. 新公会計制度について

維新の会の久保高章でございます。第 7 回定例会におきまして質問の機会を与えていただきましたことに感謝申し上げます。

先輩、同僚議員の皆様におかれましては、しばらくの間ご清聴の程、宜しく願い申し上げます。

今回は、3 項目質問させていただきます。

自治体間ベンチマーキングについて、RPA 活用の進捗状況について、新公会計制度について伺ってまいります。

★まずは、自治体間ベンチマーキングについてです。先月、町田市が取り組んでいる自治体間比較による業務プロセスの標準化（ベンチマーキング）について視察を行ってまいりました。この自治体間ベンチマーキングとは、自治体間で業務プロセス、パフォーマンス、コスト等を比較し、差異を「見える化」とするとともに、自治体間で共通化できるベストプラクティスを検討し、業務改革、改善に取り組むことです。配布資料をご覧ください。これは、総務省が出している行政改革の取組紹介の資料です。ここに記載のようにこの取組は、近隣自治体や人口規模の近い自治体同士で行われています。ここで伺い致します。この自治体間比較による業務プロセスの標準化（ベンチマーキング）についてどのようにお考えでしょうか。

★次に、6 月の一般質問において、今後、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）や ICT の活用は行政管理課と情報政策課がお互いに連携して調査、研究を進めていくとご答弁頂きました。ここで伺い致します。一日も早く RPA 等を取り入れて頂きたいと思っておりますが、現在の進捗状況を具体的にお答え下さい。

★次に、新公会計制度についてです。平成 28 年度決算から総務省の統一基準による新公会計制度が導入され、財務 4 表と固定資産台帳が作成されました。ここで伺い致します。今回の統一基準に基づく財務 4 表【貸借対照表・行政コスト計算書（損益計算書）・資金収支計算書（キャッシュ・フロー計算書）・純資産変動計算書】や固定資産台帳による決算書を作成されていますが、この財務 4 表、固定資産台帳作成によりどのような効果が表れたのでしょうか。お答えください。

以上で、1 問目の質問を終了いたします。

## 一問一答

1-① ここで伺い致します。この自治体間比較による業務プロセスの標準化（ベンチマーキング）についてどのようにお考えでしょうか。

1-② 現在、本市が行っている事務事業評価及び業務プロセス分析とベンチマーキングとは根本的な目的が違うと思うのですが如何でしょうか。

1-③ 事務事業評価は、事業のチェック検証であり業務プロセス分析は、誰がその業務を担うことができるのか例えばアウトソーシング可能かを判断するものです。ベンチマーキングは、その事業そのものの進め方や、やり方が本当にそれでいいのか「見える化」して他の類似都市と比較するものです。本市の内部だけでの自己満足かどうかを検証するためのものだと思うのですが如何でしょうか。

1-④ 町田市では、どこの市でもほぼ同様に行われている法定業務、国民健康保険・介護保険・市民税・資産税・保育関連・住民基本台帳これらの業務についてベンチマーキングを行っています。いずれかの業務に参加している自治体数の合計は町田市を含め12団体となっています。ここで伺い致します。本市は、この法定業務は他都市に比べて効率的、経済的に行われていると言えるのでしょうか。

1-⑤ では、そのように言える根拠は何でしょうか。

1-⑥ 町田市資料1-①②③をご覧ください。これは、2018年2月時点での改善計画に基づく見込みです。介護保険業務と国民健康保険業務で稼働時間年間229,538時間中、業務調査の結果から明らかに他都市との差異があった業務の稼働時間は116,032時間あり、その中で改善による削減時間は2021年度見込みで年間11,527時間、約5%で人件費にして約6.7人分削減となっています。次に2の表をご覧ください。2017年から2021年の5年間で稼働時間の削減効果は累計で48,894時間、前段の計算式で人件費を計算すると約28.4人分削減となります。そして、見直し効果額は人件費と物件費を合算して2億3,178万8千円と大きな削減額となっています。ここで伺い致します。現在、事業の効率化を図るために他の類似都市や先進都市との連携はとられていますか。とられているのであれば、具体的にどのような連携をさ

れているのかお答えください。

- 1-⑦ 今お答えいただいた情報交換は、口頭だけの情報交換であり具体的な事業の進め方や仕組み効果についての数字的根拠（エビデンス）を教示してもらっているのでしょうか。
- 1-⑧ 視察の際、町田市さんに「ベンチマーキングのフォーマットを頂くことはできないでしょうか」とお願いしたところ、フォーマットを頂くことができました。それを行政管理課の方にはお渡し致しました。本市は、他都市に比べ行革は進んでいると思います。ですから事業に対してのデータをたくさん持っておりフォーマットの数字の埋め込みは可能だと思います。こういったことからマンパワーはあまり必要ないのではないのでしょうか。そのデータを生かす意味でもベンチマーキングを行い本当に今の事業のやり方がベストなのか他都市との比較を行って頂きたいのですが如何でしょうか。
- 1-⑨ マンパワーが必要であると言われるなら、ベンチマーキングを行う事により人員を浮かす事は可能ですし、業務プロセス分析でアウトソーシング出来た職員の方を回すことも可能だと思います。いずれにしても費用対効果は、先ほどの町田市資料からも非常に高いですし、他都市との連携も強固になるとと思いますが、如何でしょうか。
- 1- 完 町田市さんも2015年にベンチマーキングを行うことを決定し、その年度中にフォーマット作成から他都市への依頼、論点整理、ベストプラクティスを導き出すまで行われています。又、懸念されているベンチマーキングの為に別に人を充てることなく達成されています。やるかやらないかの決断だけです。なお一層の行革を行っていく必要のある本市においては、すぐにでも取り入れて頂くことを強く要望致します。

★では、次にRPAの進捗状況についてです。

2-① ここでお伺い致します。一日も早くRPA等を取り入れて頂きたいと思っておりますが、現在の進捗状況を具体的にお答え下さい。

2-② このRPAを活用するとすれば、現在の業務プロセス分析のどの象限区分に当てはまるとお考えでしょうか。象限としては、【第1象限】正規職員 【第2】外部委託、専門嘱託 【第3】外部委託、アルバイト 【第4】外部委託、専門嘱託、非常勤職

員となっていますが、お答えください。

2-③ 現在、すでに色々なソフトが存在しているので、後はどの事業に取り入れるかだけだと考えます。次年度予算に向けて予算要求して頂きたいのですが如何でしょうか。

2-④ 導入できるよう努力するとご答弁頂きました。ほぼ、予算計上して頂けるものと解釈致します。では、具体的にどういった事業の事務に導入される予定でしょうか。又、その費用と効果額はどれぐらいになるかの試算はされているでしょうか。

2-⑤ 再度確認致します。来年度RPAを、新規拡充に向けて予算要求され、導入実施に向けて努力して頂けるということによろしいですね。

2-完 いずれにしても研究、検討から導入実施に向け努力するとなりました。これで一歩、又、行革が進むと思います。人が行う必要のない事業の効率化を図り余った人材を必要な事業に充てる、或いは、ワークライフバランスの充実を図って頂きたいと思致します。宜しくお願い致します。

★では、次に新公会計について伺います。

3-① ここで伺い致します。今回の統一基準に基づく財務4表【貸借対照表・行政コスト

計算書（損益計算書）・資金収支計算書（キャッシュ・フロー計算書）・純資産変動計算書】や固定資産台帳による決算書を作成されていますが、この財務4表、固定資産台帳作成によりどのような効果が表れたのでしょうか。お答えください。

3-② そもそもですが、この新公会計制度の財務4表を作成する目的は何でしょうか。

3-③ 現在、財務4表を作成されているのですが、非常に残念なことはせっかく作成されてもそれが当該年度の決算審査に間に合わず翌年の3月頃に完成することです。ですから今回の平成29年度決算の財務4表も来年3月頃の完成と聞いています。決算審査に間に合わなければ全く意味のないものになるような気が致します。官庁会計と同時にこの財務4表を作成すべきだと考えますが如何でしょうか。

- 3-④ 何が問題でどのようにすれば可能になるとお考えでしょうか。
- 3-⑤ 町田市さんでは新公会計導入の平成 24 年度から官庁会計と財務 4 表を同時に出されています。その為には先ず財務会計システムを導入する必要があります。そうすれば後は日々仕分け入力をするだけで時間も人も必要なく問題は無いと仰っていました。如何でしょうか。
- 3-⑥ 本市の新公会計制度は、平成 20 年度から作成を始め、平成 28 年度分からは最初申し上げたように総務省の統一基準ができ、「導入していきましょう」と、国から言われているので作成することが目的となっているように思います。最初お聞きしたように財務 4 表や固定資産台帳をどの様に活用するかの目的がないので、このように決算審査の半年後に作成されていると思うのですが如何でしょうか。
- 3-⑦ であればなおさら 9 月の決算審査に同時に提出され、次年度予算に反映する必要があると思いますが如何でしょうか。
- 3-⑧ せっかくの指標が宝の持ち腐れになります。又、それを作成する経費が無駄になっているように思うのですが如何でしょうか。
- 3-⑨ 町田市さんにお聞きするとシステム導入費用は、6 年前で約 1 億円だったそうです。今ならかなり安くなっていると言われていました。ぜひ、来年度システムを導入し 30 年度の決算審査には官庁会計と財務 4 表同時に審査出来るようお願いしたいのですが、如何でしょうか。
- 3-⑩ 決算審査においての財務 4 表の必要性や目的から入らないと同時に出してもらえない様なので分かりやすい個別事業でお聞きしたいと思います。現在、地区会館等の利用料金はどのように算出されていますか。
- 3-⑪ 料金は、過去からの承継で新しい施設は従来の 1.2 倍以内とし、その利用料の算出には維持管理費のみを見られています。そして、その「維持管理費はできれば利用料

で賄いたい」と言われていました。しかし、本来は発生主義に基づく減価償却費等も経費に入れたフルコスト計算での現在の利用料はどうか、市民負担と一般会計からの投入額、そこから見える利用者一人当たりのコスト等全てを可視化することが必要だと思います。その為には、財務4表が必要です。これは、分かりやすいので公共施設の利用料で言っていますが、全ての事業に共通していると思いますが如何でしょうか。

3-⑫ 現在、事務事業評価や施策評価で事業を評価しています。町田市さんに官庁会計と同時に財務4表を活用することによるメリットをお伺いしたところ、「説明責任が果たせる」「課別フルコスト計算が可能になった」「財務の認識、意識が向上した」「コストからの成果が分かりやすい」「資料が減った」等の回答が得られました。このことが新公会計制度導入の目的であり決算審査で活用すべきであると思いますが如何でしょうか。

3-⑬ 活用するにあたってのマイナス面が見当たらないのですが、これでもまだ決算から半年遅れでの作成を続けるのでしょうか。

3- 完 何の為に新公開制度を導入し、コストをかけて財務4表及び固定資産台帳を作成しているのか目的を明確にして頂き、決して作成することが目的ではなくコスト以上の効果が出る活用をする為にも決算審査に間に合うように強く要望させていただきます。

以上で、私の全ての質問を終了致します。ご清聴ありがとうございました。